

# スコール No.34

令和元年11月5日 ほら、ぼくの星が輝いている。 名古屋市立山田高等学校進路指導部

## 毎日、空はちがう。

『カザアナ』 森 絵都 (朝日新聞出版)

多くの場合、「もうダメだ。」「絶望だ。」という状況は、自分でそうしてしまうに過ぎない。

多くの場合としか言えないところがつらいが、この現代日本社会で、高校生活を送っている生徒が、本当の意味で「もうダメだ。」という状況、つまりもう全く打つ手が無い、何をしてもしょうがないという状況は訪れにくい。

毎日、日は変わるわけで、明日が来ないことはなく、一つ目の手が失敗したら、次へ行くだけのことだ。

受験期に差し掛かると、結果を受け止めきれないような生徒もたまに出てくるが、本当は、試験の結果が悪かったことぐらいで、人間に決定的な打撃を与えることはできない。決定的な打撃に  
してしまうのは、実際のところは、自分自身でしかない。

事実、私は十何通も大学から不合格通知をいただいたが、現在から見るに、試験の不合格は私に何ら決定的な打撃を与えてはいない。(お金がかかったとか、浪人したとかはあったけれども。)

不合格通知に負ける。そんな安い人間になるのは止めよう。  
自分に決定的なダメージを与えうるのは、他者であってはならない。

と言っても、しんどいものはしんどいわけですが、上記のように考える余裕くらい持たなければ、やってられませんよということでもあります。

## 大学入試英語成績提供システムと民間の英語資格・検定導入の延期について

大きなニュースとなっているのでご存じのことかと思いますが、文部科学大臣が、11月1日に大学入試に関わっての民間の英語資格・検定試験の導入を延期すると発表しました。

予定では、次年度に実施される大学入試から導入の予定でしたが、2024年度の実施を目指すということですので、少なくとも大幅な延期となりそうです。

本校でも制度に対応すべく、システムの共通IDの申し込み開始の11月1日に、取りまとめた申込書を発送する準備を整えておりましたが、見送りました。正式な通知は、まだ来ておりませんが、何かしらの変更等があれば通知をさせていただきます。尚、英検の予約はすでにスタートしておりました。しかし、その対応については、まだ何も情報がありません。突然の決定ですので、多少時間がかかるかもしれません。裏面に、新聞記事も印刷してあります。参考にご覧ください。

この制度に関しては従前より以下のような問題が提起されており、一度延期が決まった以上、それらが改善・解決されないと実施までこぎつけられないと思われれます。

- そもそもすべての大学生および学問探求において民間の資格・検定試験で測る高度な英語4技能が必要なのかという意義そのものの問題。(現在18歳人口の進学率は50%を超えています。)
- 認定された複数の試験をどのように公平に評価し、入試の合否判定を行うのかという問題。
- 受験機会(地理的要因・金銭的要因)の公平さをどう担保、補助していくかの問題。(受験料のことばかりクローズアップされていますが、合格・高得点を狙うとすると、スピーキングを中心に塾などでの対策費もかなりかかると考えられます。格差固定を助長するという懸念は確かなものかと思われれます。)
- 受験会場・試験監督確保の問題。(末期には学校と教員の導入も検討されていたようですが、可能かどうかに加えて、通常試験問題は数日前に会場に届けられるのだから、試験の公平さは本当に確保され得るのかという問題も出てくるはず。)
- 高校1・2年次に受験した資格・検定試験の結果は基本的に入試に反映されない。(合格を得た同じ試験を2度受けるのか。)
- 受験期の受験勉強の負担をより増加させるという懸念。

以下の点に ご注意を！！

大学入試共通テストに連動した成績提供システムの導入が延期になっただけで、従前からの「英検」等の資格を利用した入試がなくなるわけではありません。資格を得ておけば有利になる試験形式もありますので、その利用も念頭に置き、民間資格・検定の受験は引き続き検討していただければと思います。

〈 例 〉

**愛知大学** (2020年度入試のものです。)

センター試験利用入試において、「英検」を利用する場合、「合格級2級以上、総合2034以上、各技能460以上」で、「英語」が満点として換算されます。